

# 名大の時間

大学生生活の約半分

## コロナ禍の大学生生活を通して得られたもの

はコロナウイルスの影響により自宅講義を受けることが多く、1人で過ごす時間が長かったため、心配な面も多くありました。しかし、先生方が連絡を取りやすいようにしてくれた

り、講義に関する資料の配布や通信環境、不具合等への対応が早く、不安を少しでも軽くしてくれたりなど、過ごしやす

い環境を作ってくれました。

対面授業が少なかったことで他学科と交流する機会も少なかったのですが、連携教育という分野があるように、他学科の学びやお話を聞き、共有する機会がありました。幅広い知識が得られる講義があることで、他職種連携などの将来に活かせる面が多いと

感じました。

また、興味を持った教科を選択して受けられることで、学びが深められるところがよいと感じました。そして大学構内には自習スペースや調べものができる場所が多くあり、学びやすい環境が整えられていると思います。

名寄市は自然が多く、農業が盛んな地域ですが、講義を通じて農家さんと関わりを持ち、農業体験ができることは他にはない特徴であると

感じました。それだけでなく、農家のアルバイトがあり、多くの生徒が行っています。他の大学に通っている友人から聞くことがないため、珍しいことだと思います。

このようなつながりから大学で野菜や米、大福などの産物が配布されることがあり、地域とのつながりが強いことや大学生が生活しやすいように支えられていると感じる場面が多くあります。私自身は飲食店や農家さんのアルバイトを通して、地域の方との交流や食に関心を持ち、調理も上手になりました。

実家を離れて一人暮らしを始めるうえで、楽しみである反面、不安な面もありましたが、学びやすい環境と地域の方が優しく、つながりも多いことから過ごしやす

い地域であると感じました。

栄養学科4年  
中川詩音

